

## タイトル

お寺で開く「写真で綴る自分史」作成講座

## 応募者

寺島 忠昭 さん（東京都、年金生活者）

## アイデアについて

### ① アイデアのタイトル

お寺で開く「写真で綴る自分史」作成講座

### ②アイデアの概要（目的・方法・効果などを、200字以内でお書き下さい。）

目的：地域コミュニティとお寺の活性化→地域の絆→安心・安全な街作り。

方法：地域の中高年が定期的にお寺に集い、パソコン・プリンタを駆使して各自「写真で綴る自分史」を作成する。作品の制作過程でお互いにパソコン・プリンタの操作方法等を教えあいながら信頼関係を築く。

効果：講座の共同作業を通じて地域コミュニティが活性化し、お寺の活性化にも繋がる。地域の絆が深まり、安心・安全な街作り、防犯防災にも役立つ。

### ③アイデアの内容（できるだけ具体的にお願い致します。）

中高年者が自分の生い立ち・歴史そして、これからの生き方・人生計画を「写真で綴る自分史」として作品化して、子供や孫に伝えて残し、家族の絆を深める事業です。

私が提唱する「写真で綴る自分史」講座は、お寺に集って、皆で各自の「写真で綴る自分史」を作成する過程で、パソコン・プリンタ・スキャン・修正・編集等をお互いに教えあい、共同作業を通じてお互いの信頼関係を構築することにあります。

実際に私は昨年自宅で、一人で作成しました。

普段まったく見る事のないアルバム写真を先ず押し入れ、物置から探し出す作業が大変でした。

アルバムに貼られてない写真も含めて膨大な量でした。つくづく日本人の写真好きが分りました。

それから写真を0歳代、10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代と年代順に10枚～20枚と選び出す作業です。これが結構時間がかかりました。

褪色した写真、傷ついた写真、折れ曲がった写真等をプリンタでスキャンし、補正、調整、修正を施します。

次にパソコンのワードを駆使して年代順に写真を貼り付け、写真毎に当時の思い等を5行～10行記載します。

全てを文字で綴るよりは誰でも容易に作れて、見る側も面白く、読みやすく、分りやすいです。写真一枚の情報量は文字数では計り知れない場合があります。

最終行には家族の歴史と世の中の出来事の年表を作成します。

自分、父母、義父母、兄弟、子供、孫、叔父・叔母、従兄達の誕生日また逝去目、そして世の中の出来事を年代表に記載します。

これでほぼ完成です。あとはプリンタで印刷するだけです。

製本化することも可能ですがコストがかかるので、私は高級な写真ファイルをおすすめします。

出来上がったら妻、子供、孫達と一緒に見て読み、写真毎に当時の思い等を語りながら家

族の絆を深めるものです。

親子の間でも、親は自分の話はあまりしないものです。ましてや、子供は親の昔話などいつでも聞けると思っているからなおさらそういう機会はないものです。そのうち結婚して別居ともなればなおさらのことです。

親が亡くなってからあの時この時、親はどんな気持ちでいたのか？ どのような行動をとったのか？ 知りたいものです。

人生の岐路にさしかかった時、親ならどんな決断をするのか聞いてみたいものです。

それでは、この講座の進め方を具体的に順を追って記します。

#### 1、この一連の作業をお寺で開くにはお寺さんの理解と協力が不可欠です。

次いで、この講座開設の告知・広告を市の広報紙、ミニコミ誌等に掲載し、又コミュニティセンターや公民館にポスター掲示して参加者を募集する。(会費は材料費、飲食費等些少)

#### 2、集った会員の自己紹介から始まります。

そして、お寺さんからこの講座開設の趣旨を話していただき参加者の賛同とご理解を得ることがとても重要です。

なぜならば、この講座のあらかたの作業段階ではお互いのプライバシーがオープンになるからです。これが嫌な方は自宅で作品を作れば済む話なのでこの講座に参加する必要がないわけです。

お互いに敬い、信頼しあいコミュニケーションが深まり、新しい絆が生まれることがこの講座開設の目的の一つでもあります。

#### 3、自宅で年代順に写真を10枚～20枚と選び、一枚毎に思い等を5行～10行程度記す段階は各自の作業です。

パソコンのできる方はワードで、できない方は手書きで思い出等を記します。

#### 4、それをお寺に持ち寄ります。パソコンのできる方は出来ない方にワードの打ち方を教えます。

いっきに出来るわけではありません、まったくパソコンにさわった事のない方でも数回重ねれば必ず出来ます。80歳代、90歳代の方でも必ず出来ます。老人会で沢山のお年寄りにパソコンを指導してきた経験上自信があります。

これが親子や孫との関係では旨く行きません。赤の他人だからいいのです。

この一連の講座を定期的または随時開催します。

毎回、2時間程の講座が終わったら、1時間程の茶話会を催し、親睦を深めます。

5、お寺での共同作業を数回重ねて最後はプリントアウトして完成です。

印刷用紙はA4サイズの高級マット紙、そして高級クリアファイルに貼って完成です。

6、全員出来上がったら発表会です。そして親睦会へとつながり、次の新しい講座では指導役、世話係として活躍していただきます。

こうして、この講座が回数と年月を重ねていくことでお寺と地域住民の関係、住民同士の関係が密になり地域の絆が深まり、防犯・防災に備えて「安心・安全な街」作りに役立ち、平穏な生活を営める地域に住まう幸福感に浸れます。

穏やかで平和な精神社会をつくりあげるのがお寺さんの大事なお役目かとも存じます。

何が起きてもおかしくない時代、不安のない穏やかで平穏な地域社会の構築こそ我々地域主権者の権利であり、義務でもあると思う。

政治、行政まかせにはできない課題です。

長年自治会役員に携わってきた経験から、共同作業を一緒に行うことが絆を深める早道です。

昨年、作成した私の「写真で綴る自分史」にも記しましたが、これからの私の生きがい・生き方・人生計画には第一に「地域貢献・地域コミュニティの活性化』を掲げました。

完。